



## つなぐちゃんベクトル

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会社内誌 臨時増刊 240号 2011.1.21 発行 社会政策研究所

=====

### 「保護者」の義務規定「存置の必要ない」 精神医療作業チーム

キャリアブレイン 2011年1月20日

厚生労働省の「『保護者制度・入院制度の検討』に係る作業チーム」は第2回会合を開いた(1月20日、厚労省内)

厚生労働省の「新たな地域精神保健医療体制の構築に向けた検討チーム」の下に設置された「『保護者制度・入院制度の検討』に係る作業チーム」(座長=町野朔・上智大法学研究科教授)は1月20日、第2回会合を開いた。精神障害者の「保護者」に医師への協力などを義務付けた精神保健福祉法の規定について話し合い、義務規定を存置する必要はないとする意見が大多数を占めた。



作業チームは、上部組織の検討チームが精神障害者の保護者制度と入院制度に関して2月から本格的に議論するのに先立って、両制度の論点を整理している。この日は、保護者に義務付けられた規定のうち、精神障害者に治療を受けさせる 精神障害者の診断が正しく行われるよう医師に協力する 精神障害者に医療を受けさせるに当たって医師の指示に従う ことについて検討した。

構成員からは、いずれの規定についても、主に精神障害者の家族が務める保護者が当然のこととして行っているとの指摘が上がった。

治療を受けさせる義務に対しては、「家族は、保護者だからでなく、家族だから治療を受けさせる。当たり前な気持ちを義務にする必要はない」(良田かおり・全国精神保健福祉会連合会事務局長)などの意見が出た。

そのほかの2規定については、医療関係者の立場から「診断時にいろいろな情報は必要だが、義務として規定するものなのか。一般(の医療)にもモラルとして存在する内容ではないか」(河?建人・日本精神科病院協会副会長)、「(精神障害者である)本人のサポートをしてもらう人にいろいろとお願いしなければならないことはある。だからといって法文にする必要はあるのか」(千葉潜・青仁会青南病院理事長)など、規定の存置に否定的な見解が示された。精神障害者やその家族の立場からも同様に、規定を削除すべきとの声が上がった。

白石弘巳構成員(東洋大ライフデザイン学部教授)は、義務規定がつけられた時は精神障害者に治療を受けさせずにいたとして、「当時は意味のあったものだと思うが、(状況が変わった今も)残しておく必要はないのではないか」と述べた。

町野座長は精神保健福祉法について、「思想的にかなりがたがたになっている」として法改正の必要性をにじませた。一方で、義務規定を削除した場合に、家族に医療情報を提供するネットワークの確保や、治療へのアクセスの担保をどのように行うかも検討する必要があると問題提起した。

## 児童養護施設、小規模化へ検討会設置 厚労省

日経新聞 2011年1月20日

厚生労働省は20日までに、児童養護施設を小規模化して子供一人ごとの状態に合わせたケアを進めるため、児童福祉の専門家による検討会を設置すると発表した。同省は既に施設職員を増員する方針も示しており、再来年度予算の概算要求に具体的政策として反映できるように議論を進める。

今月末に初会合を開き6月ごろをメドに報告書をまとめる。小宮山洋子厚労副大臣は「法改正なしで今すぐできることを検討したい」と話した。

検討会では、大規模な児童養護施設での集団的ケアから、グループホーム主体の施設での個別ケアへの転換や、特定の養育者のもとで少人数の児童が家庭的な養護を受けるファミリーホームの拡大、里親委託の推進などについて議論。

施設における職員の配置基準の充実も含め、法改正が不要で省令改正により迅速に対応できる分野を中心に話し合う。

## 子ども手当「全額国費で計上」 横浜市長が方針

朝日新聞 2011年1月20日

来年度の子ども手当の対応をめぐり、横浜市の林文子市長は19日、子ども手当の予算は全額国費で計上する方針を明らかにした。川崎市の阿部孝夫市長も全額国費で計上する方針をすでに明言している。

林市長は定例会見で「国に対して強い抗議の姿勢を示すのは県と一緒だ。一緒になって戦う」と語った。ただ、国費負担が認められなかった場合について「そのときはあらゆる予算措置を検討する。とにかく今は国にお願いする」と説明。措置の具体策は示さなかった。

こども家庭課によると、市内の子ども手当支給対象者は約50万人。支給が始まった昨年4月から1月までの10カ月分で、市の負担は国の特例交付金を差し引くと、約58億円になる見込みという。

一方、阿部市長は国費が出ず決算で赤字となった場合、「国に請求していきたい」と損害賠償請求なども辞さない姿勢を示している。1月4日の年頭会見では「国がどうしてもダメというなら、(市税に)特別加算税を設けて回収するなど、いろいろな手を考えていかなければならない」と市民負担を求める可能性も明らかにしている。

## 味や質にこだわり 販路拡大へトゥギャザー



朝日新聞 2011年01月20日  
障害者が作ったお菓子。アーモンド入りのクッキーが人気という=大阪市住吉区のよさみ野障害者作業所

クッキーやケーキなどを作る府内を中心とした24の障害者施設が、販売先を広げようとタッグを組んだ。プロのパティシエから一緒にお菓子作りを学ぶ機会を設けたり、郵便局にカタログを置かせてもらったりしてPR活動に取り組んでいる。

知的障害者ら43人が通う「よさみ野障害者作業所」(大阪市住吉区)。調理場に入ると、クッキーの香ばしいにおいが広がる。障害者が職員に教わり

ながら生地を練ったり包装したりしていた。

作業所では約5年前からお菓子作りを始めたが、知り合いから聞いたレシピ通りにしかできず、販路は広がらないまま。収益は障害者に入る仕組みだが、思うように利益は出ないという。荒木勝司施設長(52)は「地域の祭りの際や学校の行事の手みやげなど、単発でしか売れないことが多い」と打ち明ける。

同じ悩みを持つ施設を支援しようと、大阪市浪速区のNPO法人「トゥギャザー」が動いた。大阪や奈良などの施設に呼びかけ、昨年6月から11月までの計7回、市内の調理専門学校に頼んで研修を実施。各施設で実際に売っているお菓子を持ち寄り、パティシエらから改善点を学んだ。

さらに、郵便事業会社の助成を受け、作業所で作ったお菓子やおもちゃを紹介するカタログを近畿を中心とした郵便局に配布したほか、2月18日からは大阪市阿倍野区の近鉄阿倍野店で、18の施設が集まってお菓子の販売会も開くという。

トゥギャザーの中條桂理事長(75)は「味や質にこだわり、一般の店にもひけをとらない商品が作れるようになってきた。施設が協力して一人でも多くの人に買ってもらえたらうれしい」と話している。問い合わせはトゥギャザー(06・6646・3380)へ。

## プレスリリース

### ARM、障がい者採用支援サービス「アドバンテッジキャリアプラス」を開始

～日本初( )、採用後のEQコミュニケーション教育で「企業が採用したい人材」を育成～

メンタルヘルスケア対策、就業障がい者支援事業など先進的な人事ソリューションを提供する株式会社アドバンテッジリスクマネジメント(本社：東京都目黒区、代表取締役社長：鳥越慎二、JASDAQコード8769、以下ARM)は、障害を持つ求職者に企業の求人情報をWeb上で提供すると共に、EQ理論による求職者向けの自己分析ツールや採用後のトレーニングを通じて「企業が採用したい人材」の育成・定着まで支援する、新たな障がい者採用支援サービス「アドバンテッジキャリアプラス」を1月19日より開始します。

障害者雇用促進法の改正、ダイバーシティ経営やコンプライアンスの高まりなどを受け、障がい者雇用を積極化する企業が増える一方で、採用後に職場の人間関係やコミュニケーションに起因する職場不適應や離職など、障がい者雇用推進にあたっての課題も大きくなっています。

これらの課題を解決するために、2004年から展開してきた人材紹介サービス「アドバンテッジキャリア」をリニューアルし、企業と人材のマッチング機能や職場向けのコンサルティングなど従来型の障がい者雇用支援サービスに加え、求職者のコミュニケーショントレーニングやメンタルサポートなどの企業・求職者双方からニーズが高いサービスを新たに加え、今後は「アドバンテッジキャリアプラス」として新たにサービスを提供します。

求職者はWebを通じて、求人情報の閲覧・エントリーに加え、EQ理論を基にした自己分析ツールを利用することができます。また就職後の定着サポートとして、EQ理論によるコミュニケーショントレーニングや専門家によるカウンセリングを受けることができます。

新規・既存顧客への紹介を進め、2011年度中に150社との契約を目標としています。また、2013年度までには契約社数500社、求人件数5000件を擁する障がい者求人サイトNo.1へ成長すると共に、将来的には各業界の企業・団体・NPO等と連携し、障がい者手帳保有者のみならず就労に課題を有する全ての方々のニーズを満たす総合ポータルを目指します。

アドバンテッジキャリアプラスオープン記念登録キャンペーンのお知らせ

新たに登録された求職者の方を対象に、便利アイテムが抽選で当たるキャンペーンを実施しています。

詳細はアドバンテッジキャリアプラスWebサイトをご覧ください  
<http://ac.armg.jp/>

#### 【アドバンテッジキャリアプラスサービス概要】

開始日： 2011年1月19日

内容： 障がい者採用支援サービス

求職者向けサービス

- > マイページの利用
- > プロフィール、レジュメの保存変更
- > スカウトサービス（あなたに興味のある企業からのスカウトをマイページで受信）
- > お仕事紹介サービス（専属コーディネータがお仕事をご紹介します）
- > EQ 診断（お仕事における感情の使い方をチェック）
- > メンタルサポート（専門のカウンセラーによる電話・メールでのお悩み相談）

企業向けサービス

- > 求人情報／企業情報の掲載
- > トレーニングサービス（本サービスを使って就職した求職者向けに実施し、定着を促進）
- > コンサルティング（障がい者雇用体制構築、職域開発の支援）
- > セミナー等の各種情報提供

今後の展望として、障がい者向け総合ポータルとしてSNS 機能、e コマースプラットフォーム機能などを実装し、各業界の企業・団体・NPO 等と連携したサービス開発を図る予定です。

URL： <http://ac.armg.jp/>

費用： 求職者向けサービスは無料。企業向けサービスは200,000円（税込）～。

#### 【株式会社アドバンテッジリスクマネジメントについて】

株式会社アドバンテッジリスクマネジメントは、『安心して働ける環境』と『活力ある個と組織』を共に創る」を企業理念に、先進的な人事ソリューションを提供しています。1995年に日本で最初となるGLTD（福利厚生制度として導入する、傷病による就業不能時の所得補償保険制度）を提供して以来、「就業不能リスク」「メンタルヘルス問題」などの社会的課題を解決するためのソリューション事業を展開。GLTD分野で延べ約30万人、企業向けメンタルヘルスケア分野で約75万人となり、いずれも国内トップシェアの導入実績を有しています。また、人材採用・教育分野ではEQを柱に採用から制度まで、企業の人材を支えるトータルソリューションを展開しています。

なお、弊社はメンタルヘルス業界における唯一の上場企業であり、日本経済団体連合会（日本経団連）に加盟しています。

たまには太陽の子・手をつなぐ、たまにはつなぐちゃんベクトル、たまにブログたまにはチェック



大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行